全国納税貯蓄組合連合会優秀賞

五三四〇円の一日

新潟大学附属長岡中学校
三年　金子　里穂

「海外の人は税金を払えることは幸せなことだと思っている」と母に聞きました。税金を払える収入があることはありがたいことだと言うのです。私はそれを聞いて驚きました。なぜなら、私がよく耳にするのは、どちらかというと「税金を払いたくない」という言葉だからです。何年か前に消費税が十％になりましたが、その際もニュースの街頭インタビューで目にしたのは、消費税が増えることに対してマイナスな捉え方をする声ばかりだったように思います。私はときどき百円ショップに行きます。当たり前のように百十円を払っていますが、以前は百三円や百五円で良かったことを思うと、少しうらやましいと感じます。しかし私は知りました。税金は私たちの生活に、私が考えていた以上に密接に関わっていることを。

七月に学校で租税教室を受けました。そこでは、それまではぼんやりとしか知らなかった様々な税について学ぶことができました。そのとき、配布された冊子である新潟県租税教育推進協議会の「わたしたちの生活と税」を読むと、ある記述に驚きました。「公立学校の児童・生徒一人あたりの年間教育費」という見出しで小中高生の教育費が示されており、中学生は一人あたり年間約一〇六七〇〇〇円ものお金が使われているとありました。一日あたりの金額は、約五三四〇円になるそうです。中学生の私にとって、五三四〇円というのはとても大きな額です。それが毎日毎日、私一人のために使われているのです。とんでもないことです。もちろん私たち中学生が教育を受けるために使われていることは知っていました。しかし、実際に数字を知ると、それは私が思っていた以上に大きな金額でした。

税金で支払われる五三四〇円。誰かが働いて納めているからこそ、私は毎日教育を受けられているのです。思えば税というのは、相互に支え合う仕組みなのかもしれません。誰かが納める税金が、街を整備し、公共のシステムの動力となり、私たちの教育に役立っています。そしてまた別の誰かの税が、その人の生活を支える何かとなるのです。そう考えると税というのは、社会が成り立つ上で必要かつ、とても素敵な仕組みだと感じます。さて、私は学校で過ごす毎日にそんな誰かの思いを背負えているのでしょうか。私は一日に五三四〇円分の価値のある学びができているのでしょうか。きっと、できていないと思います。

お金はとても大切なものです。それを集めた税金も、大切なものです。そんな税について学んで、私は、税金を使って学んでいるということは、誰かの思いや期待を背負って学んでいるということだと考えました。これから学校生活を送る上で、五三四〇円の一日だということを忘れず、感謝の気持ちを持って毎日を大切に過ごしていきたいです。